

第15回日本在宅医学会大会 ランチョンセミナー 14

在宅における 褥瘡予防対策と 治療経験からの提案

平成25年 **3月31日** 日

12:10-13:10

ひめぎんホール 多目的室

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2-5-1

TEL: 089-923-5111



▶ 座長

鈴木内科医院 副院長 **鈴木 央** 先生

▶ 演者

総合医療 希望クリニック 院長 **堀田 由浩** 先生

共催 / 第15回日本在宅医学会大会・マルホ株式会社

講演概要

演者は、平成13年12月から、褥瘡学会初代理事長の大浦武彦先生の協力を得て、日本人のエビデンスに基づく褥瘡発生リスクアセスメント・OHスケールを用いた褥瘡予防対策プログラムを600床の総合病院で導入した。その結果、5週間で院内褥瘡患者数が34名から7名へと減少し、褥瘡対策プログラムの成果を実感した。その後、この対策を地域で実践すべく、愛知県三好町（現みよし市）で褥瘡対策事業を平成16年4月から開始、平成19年から、名古屋市北部で、在宅褥瘡往診を行ってきた。

今回、褥瘡リスクアセスメント・OHスケールの解説と共に、在宅における予防的マットレス選択基準を解説する。次に、褥瘡治療法の工夫について急性期、感染・壊死組織融解期、肉芽形成期、表皮形成期と段階ごとに紹介する。褥瘡発生原因である外力の徹底的排除を基本として、急性期では、創面をしっかりと観察できて、外力も防止するポリウレタンフィルムを貼付する。感染初期では、褥瘡の感染が全身に拡大しないように、切開するタイミングを逃さないように注意する。切開後の浸出液が多量な時期は、ヨウ素軟膏、カデキソマー・ヨウ素軟膏、ポビドンヨード・シュガー軟膏を使用している。壊死組織をできるだけ早く融解するためには、プロメライン軟膏やスルファジアジン銀クリームを、肉芽形成期には、頻回に創を観察できない在宅では、アルプロスタジルアルファデクス軟膏をポビドンヨード・シュガー軟膏と併用して使用したり、トラフェルミンスプレーを追加している。表皮形成期の最終には、ブクラデシンナトリウム軟膏による吸水作用を期待して使用する。以上の外用薬とフィルムを活用した治療経過を供覧する。在宅でも、リスクアセスメントをしっかりと行い適切なマットレスを選択し、普段からのずれ力を防止するケアが普及すれば、外力が最小になるので、褥瘡発生は防ぐことができると考えている。



▶ 略歴

総合医療 希望クリニック 院長

堀田 由浩 先生

- 昭和 63 年 3 月 国立三重大学医学部 卒業
- 5 月 厚生連加茂病院 研修医
- 平成 元年 4 月 厚生連加茂病院 一般外科
- 7 年 6 月 社会保険中央病院 形成外科 医員
- 14 年 6 月 厚生連加茂病院 形成外科 部長
- 16 年 4 月 三九朗病院 形成外科 部長
- 愛知県 三好町褥瘡対策事業
プロデューサー 兼任
- 18 年 12 月 日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会 理事
- 22 年 7 月 統合医療 希望クリニック 院長
- なごやかクリニック 床ずれ往診医

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー
共 催	マルホ株式会社
タイトル	在宅における褥瘡予防対策と治療経験からの提案
日 時	平成 25 年 3 月 31 日 12 : 10 ~ 13 : 10
会 場	多目的室
演 者	統合医療 希望クリニック 院長・堀田由浩 先生
座 長	鈴木内科医院 副院長・鈴木央 先生
企画趣旨	<p>演者は、平成 13 年 12 月から、褥瘡学会初代理事長の大浦武彦先生の協力を得て、日本人のエビデンスに基づく褥瘡発生リスクアセスメント OH スケールを用いた褥瘡予防対策プログラムを 600 床の総合病院で導入した。その結果、5 週間で院内褥瘡患者数が 34 名から 7 名へと減少し、褥瘡対策プログラムの成果を実感した。その後、この対策を地域で実践すべく、愛知県三好町（現みよし市）で褥瘡対策事業を平成 16 年 4 月から開始、平成 19 年から、名古屋市北部で、在宅褥瘡往診を行ってきた。</p> <p>今回、褥瘡リスクアセスメント・OH スケールの解説と共に、在宅における予防的マットレス選択基準を解説する。次に、褥瘡治療法の工夫について急性期、感染・壊死組織融解期、肉芽形成期、表皮形成期と段階ごとに紹介する。褥瘡発生原因である外力の徹底的排除を基本として、急性期では、創面をしっかり観察できて、外力も防止するポリウレタンフィルムを貼付する。感染初期では、褥瘡の感染が全身に拡大しないように、切開するタイミングを逃さないように注意する。切開後の浸出液が多量な時期は、ヨウ素軟膏、カデキソマー・ヨウ素軟膏、ポビドンヨード・シュガー軟膏を使用している。壊死組織をできるだけ早く融解するためには、プロメライン軟膏やスルファジアジン銀クリームを、肉芽形成期には、頻回に創を観察できない在宅では、アルプロスタジルアルファデクス軟膏をポビドンヨード・シュガー軟膏と併用して使用したり、トラフェルミンスプレーを追加している。表皮形成期の最終には、ブクラデシンナトリウム軟膏による吸水作用を期待して使用する。以上の外用薬とフィルムを活用した治療経過を供覧する。在宅でも、リスクアセスメントをしっかり行い適切なマットレスを選択し、普段からのずれ力を防止するケアが普及すれば、外力が最小になるので、褥瘡発生は防ぐことができると考えている。</p>